

NHK学園

書道・ペン字検定

課題集

保存版

2022年4月改訂

NHK学園で実施している書道・ペン字検定の課題集です。

級位から段位へと、自分の実力が確認できます。技術を磨き、ぜひ師範まで目指してください。

級位・段位を早く上げたい方は、毎回受けることをお勧めします。講座の受講とともに実力を養う一つの機会としてご利用ください。

師範試験も通信（在宅）で受験できます。

7級課題

(現在8級の方の課題)

半紙

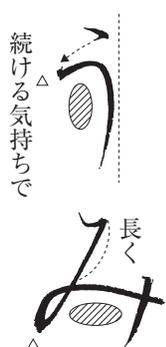
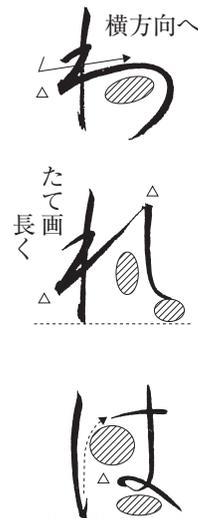
- ※かな用半紙を使用し、一枚を提出してください。
- 半紙の広さに調和する大きさと書いてください。
- 氏名はひらがなで調和するように体裁よく書いてください。

石飛博光書

われは うみのこ

われは うみのこ

ポイント



●…あける所
△…あたる所

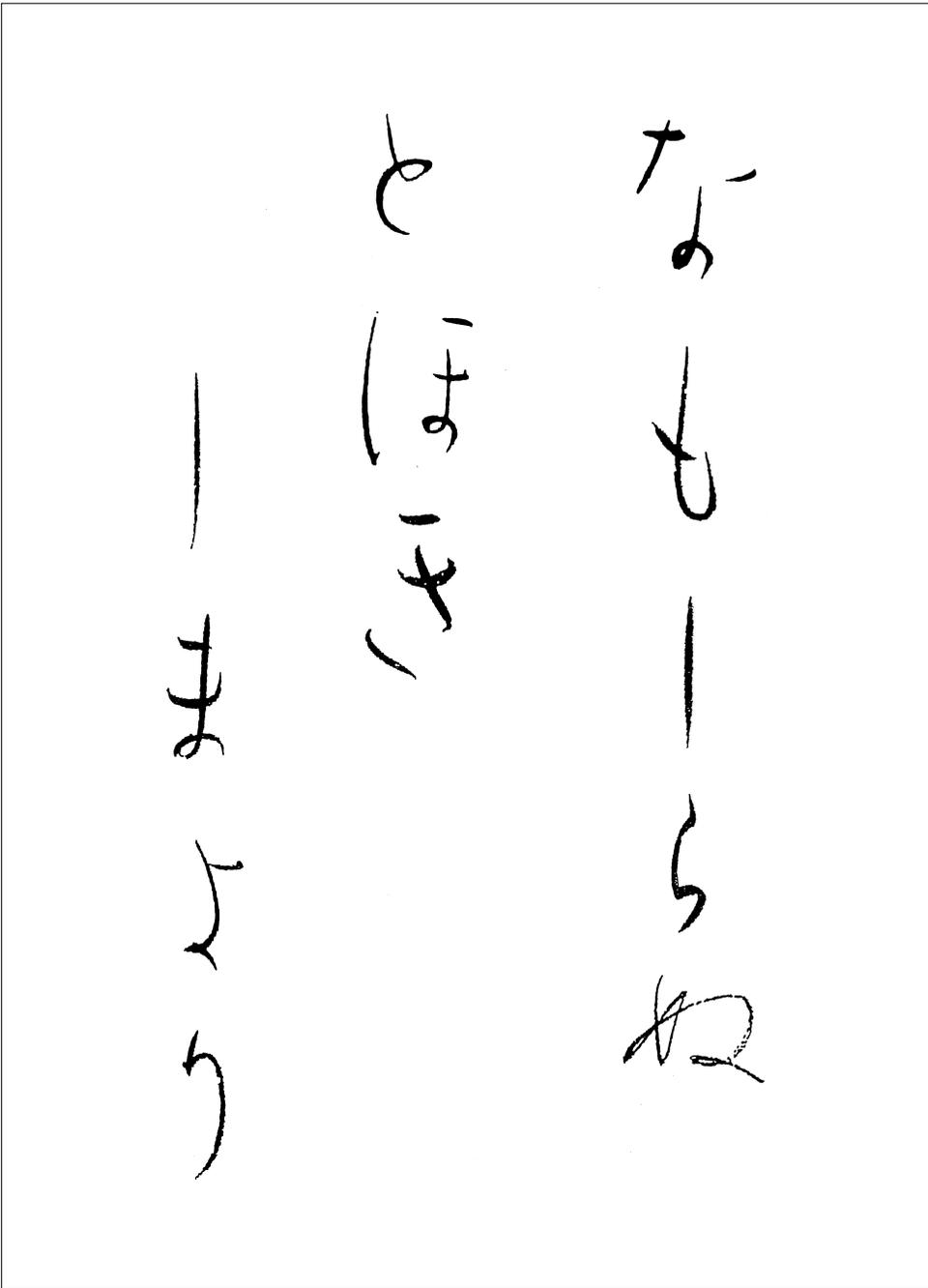
6級課題

(現在7級の方の課題)

半紙

- ※かな用半紙を使用し、一枚を提出してください。
- 半紙の広さに調和する大ききさで書いてください。
- 氏名はひらがなで調和するように体裁よく書いてください。

高野切第三種より集字



なもしらぬ とほきしまより

ポイント

続ける気持ちで



- ...あける所
- △...あたる所

5級課題

(現在6級の方の課題)

半紙

※かな用半紙を使用し、一枚を提出してください。

○半紙の広さに調和する大きさと書いてください。

○落款(名前+臨)は行草体で調和よく書いてください。

粘葉本和漢朗詠集より

ふるあてに
はつしもの
あねと

ふるあてに はつしもの あらねど

ポイント

ふるあてに
続ける気持ちで

はつしもの
続ける気持ちで

あねと
小さく結ぶ

●…あける所
△…あたる所

4級課題

(現在5級の方の課題)

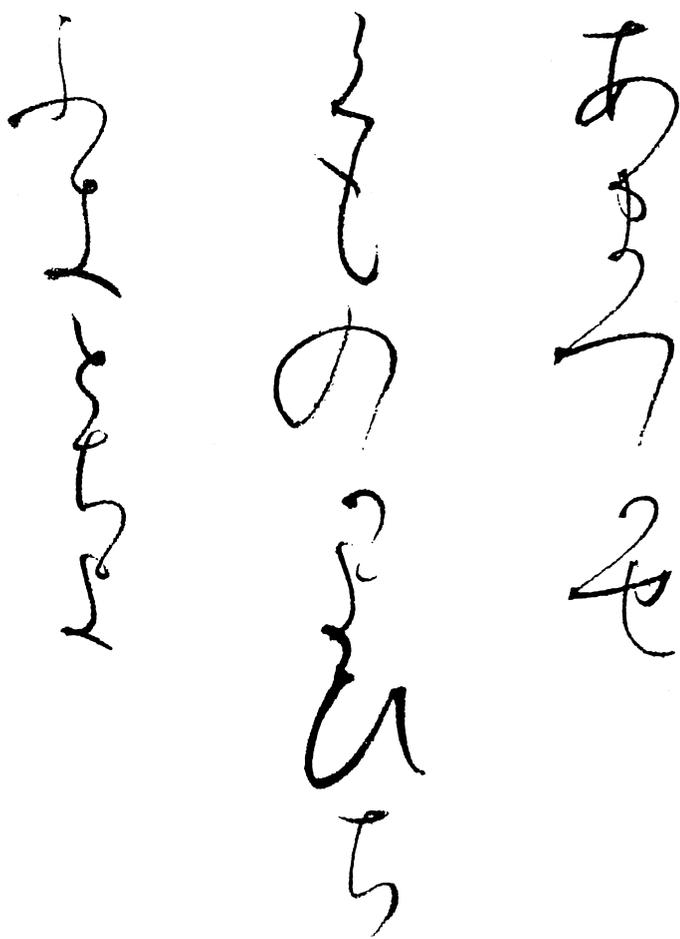
半紙

※かな用半紙を使用し、一枚を提出してください。

○半紙の広さに調和する大きさと書いてください。

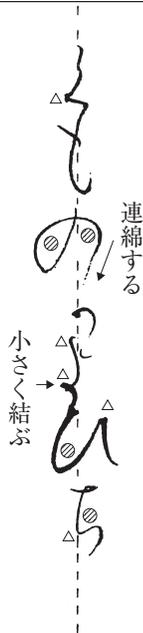
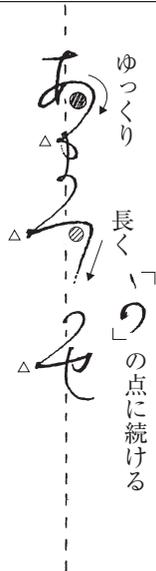
○落款(名前+臨)は行草体で調和よく書いてください。

粘葉本和漢朗詠集より



あまつかぜ^可 くものかよひぢ^可 ふきとぢよ^支

ポイント



●…あける所
△…あたる所

3級課題

(現在4級の方の課題)

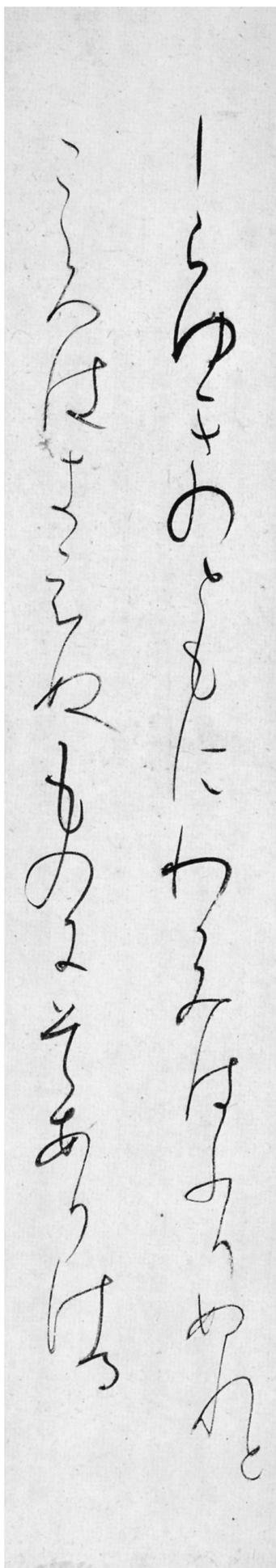
半紙

※かな用半紙を使用し、一枚を提出してください。

高野切第三種

○半紙中央に二行に臨書します。半紙の中央に、お手本と同じ大きさの短冊型の枠をエンピツで引いて書かれると、文字の大きさ、行の流れや余白が捉えやすく、納めやすくなるでしょう。

○落款は、二分くらいの印を適した位置に押します。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

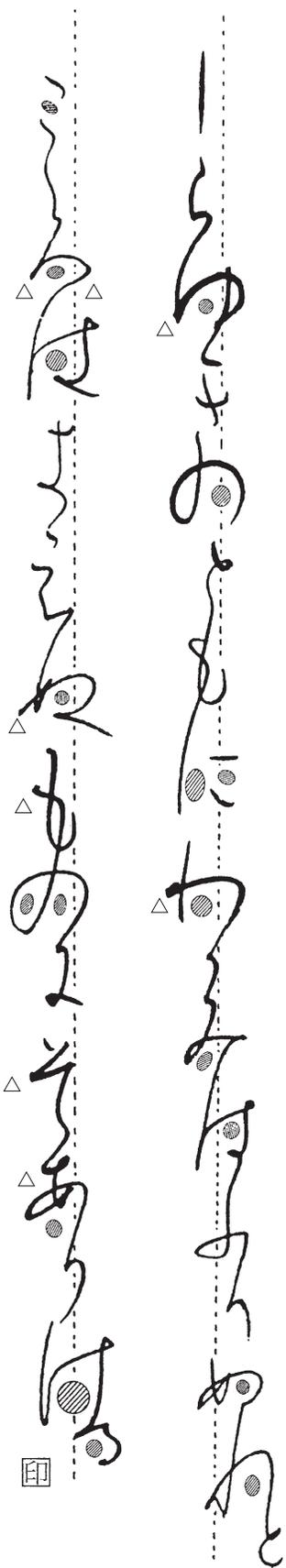


(原寸大)

しらゆきのとみにわがみはふりぬれど こゝろはきえぬものにぞありける

〈意味〉白雪が降るのと一緒に私の身は古くなりましたが、私の心は雪が消えても簡単には消えません。

ポイント



●…あける所
△…あたる所

2級課題

(現在3級の方の課題)

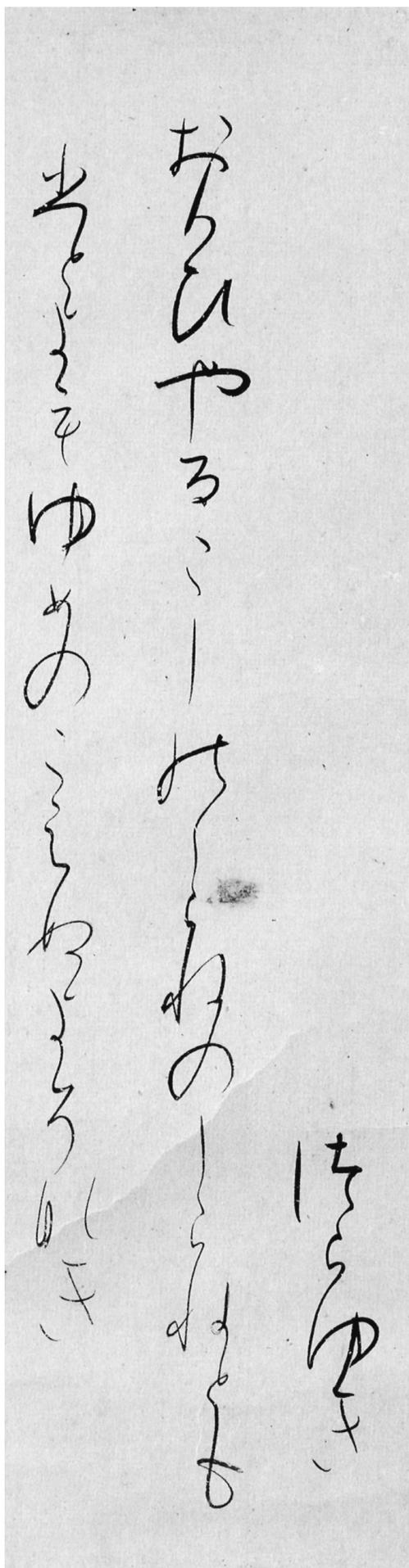
半紙

※かな用半紙を使用し、一枚を提出してください。

高野切第三種

○半紙中央に三行に臨書します。半紙の中央に、お手本と同じ大きさの短冊型の枠をエンピツで引いて書かれると、文字の大きさ、行の流れや余白が捉えやすく、納めやすくなるでしょう。

○落款は、二分くらいの印を適した位置に押します。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

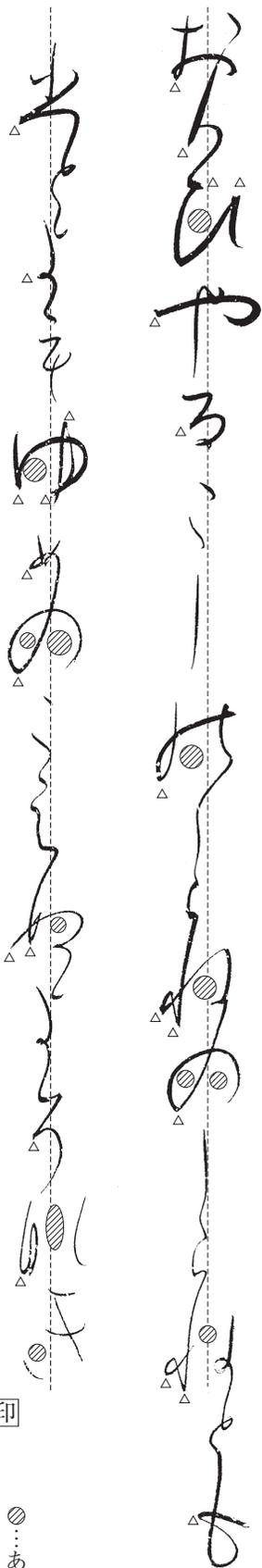


(原寸大)

徒 つらゆき おもひやる^无こし^能のしらねのしらねども ひとよもゆめ^悲のこえぬ^毛よぞなき^{首那}

〈意味〉あなたがいる越^{こしのくに}国の白山を都からはるかに想像しているだけでまだ見たことはありませんが、私の夢は一夜といえどもその山を越えないことはないのです。

ポイント



印

●…あける所
△…あたる所

1級課題

(現在2級の方の課題)

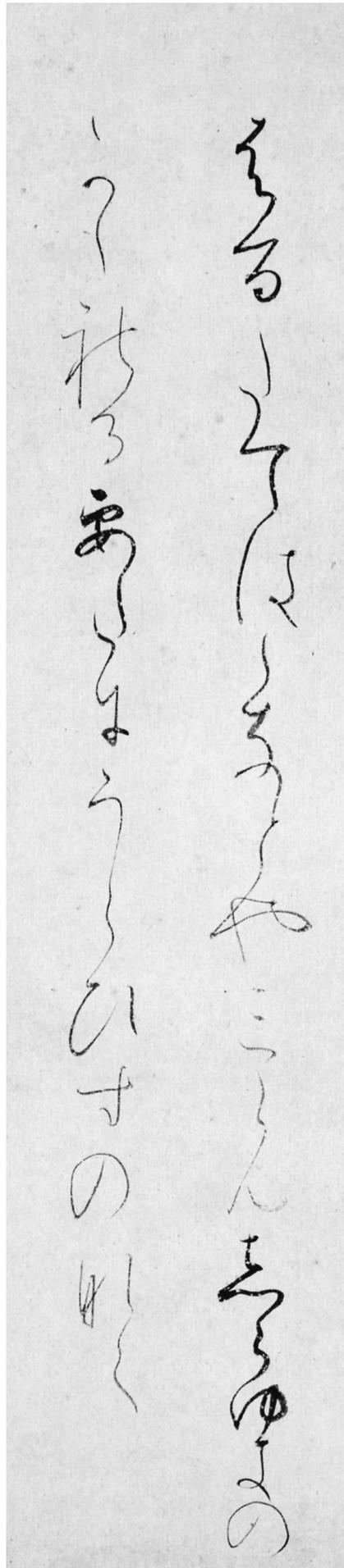
半紙

(1・2)の二課題、二枚を提出)

① 高野切第一種 ※かな用半紙を使用し、一枚を提出してください。

○半紙中央に二行に臨書します。半紙の中央に、お手本と同じ大きさの短冊型の枠をエンピツで引いて書かれると、文字の大きさ、行の流れや余白が捉えやすく、納めやすくなるでしょう。

○落款は、二分くらいの印を適した位置に押します。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

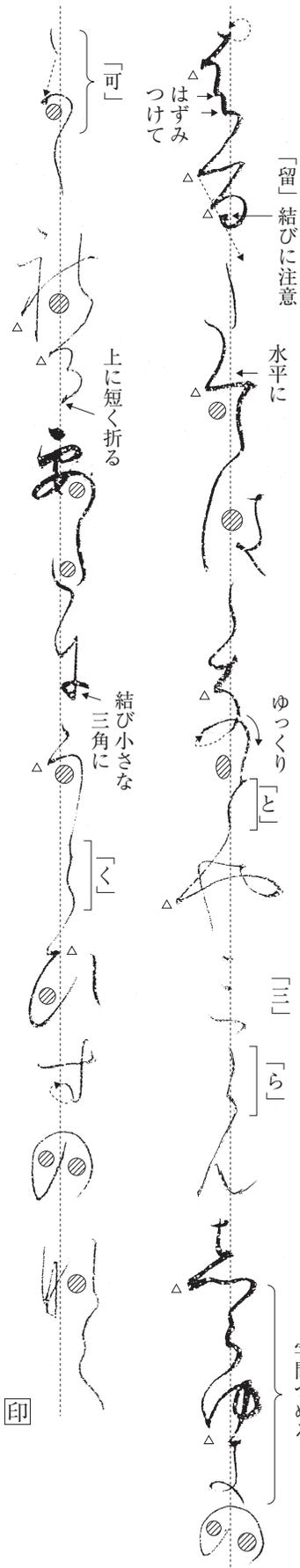


(原寸大)

はる^{留多}たてば、な^奈とやみ^三らん^志しらく^支きの^可 か、^礼れる^{要多}えだ^尔にう^那ぐひ^那すの^可なく

〈意味〉春になったので、鶯は雪を花だと思っっているのだろうか。白雪が降りかかっている梅の枝で、あのとおり、楽しそうにさえすっているよ。

ポイント



●...あける所
△...あたる所

② 漢字かな交じり 半紙

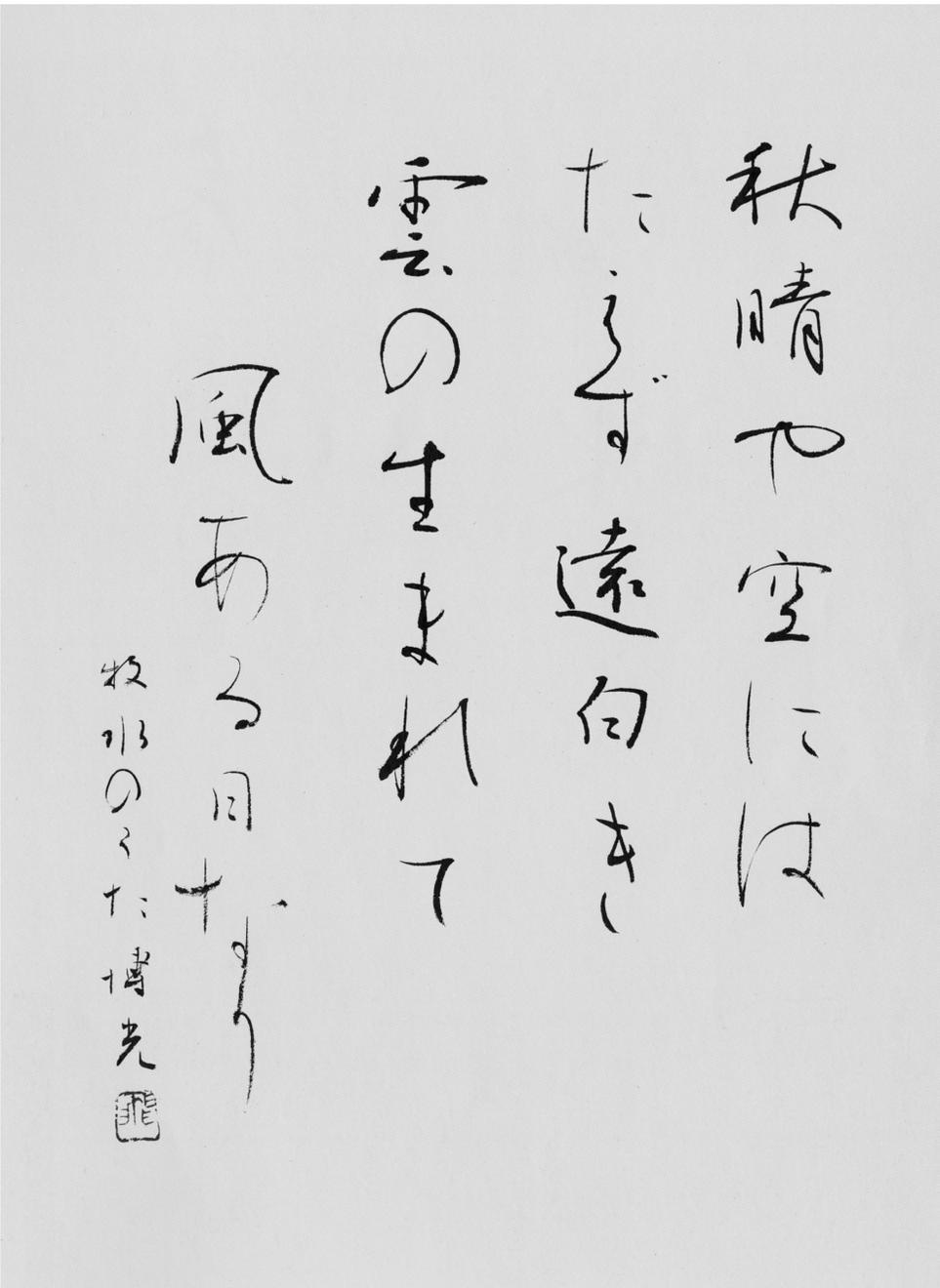
語句

・秋晴や空にはたえず遠白き雲の生まれて風ある日なり
(若山牧水 1885~1928)

※かな用半紙を使用し、一枚を提出してください。

○半紙の広さに調和する大ききで書いてください。

○落款は、「博光」印のところは自分の名前を書き、三分くらいの印を押します。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。



秋晴れや空には たえず遠白き 雲の生まれて 風ある日なり 牧水のうた

ポイント

イメージ

・かなに漢字を合わせ、細めですっきりと明るく

紙・筆・墨

- ・半紙(縦長に使う)
- ・7~8号の大きさ
- ・粘らない程度によく磨る

アドバイス

・字間・行間を明るく、ゆったりとりながら、一貫した流れを切らないように

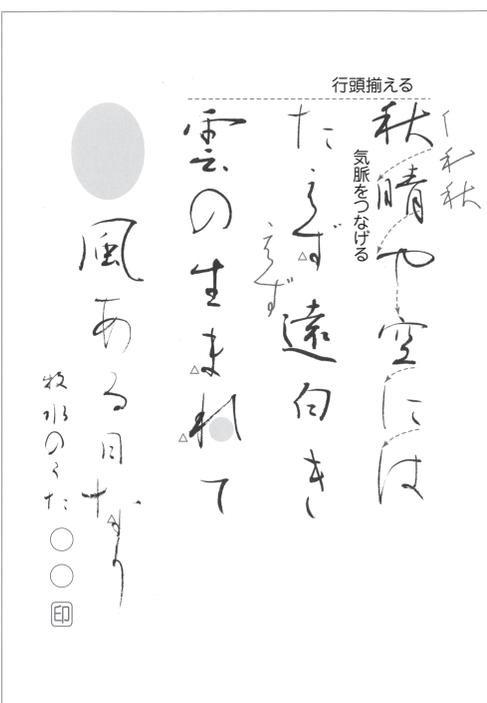
古典参考資料

- ・伝 藤原行成「粘葉本和漢朗詠集」(平安時代)

秋而言漏正長空

やまてこひーあ

漢字と仮名が混在し、漢詩と和歌が調和よく書かれている。洗練された字形で、全体に流れと変化が美しい作品



初段課題

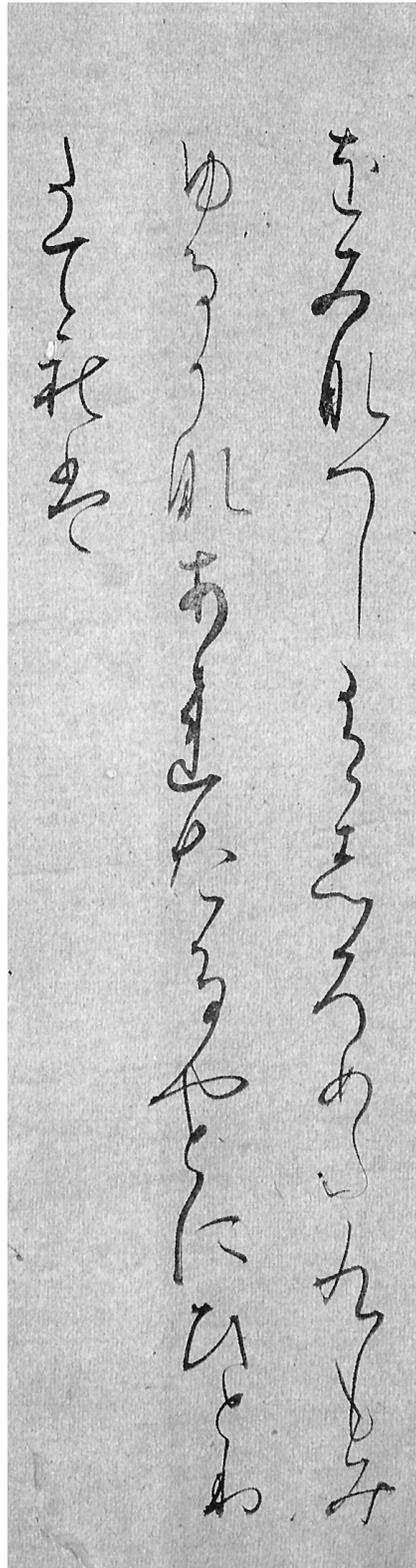
(現在1級の方の課題)

半紙

(1・2)の二課題、二枚を提出)

① 関戸本古今集 ※かな用半紙を使用し、一枚を提出してください。

- 半紙中央に三行に臨書します。半紙の中央に、お手本と同じ大きさの短冊型の枠をエンピツで引いて書かれると、文字の大きさ、行の流れや余白が捉えやすく、納めやすくなるでしょう。
- 落款は、三行目の下部に二分くらいの印を押します。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

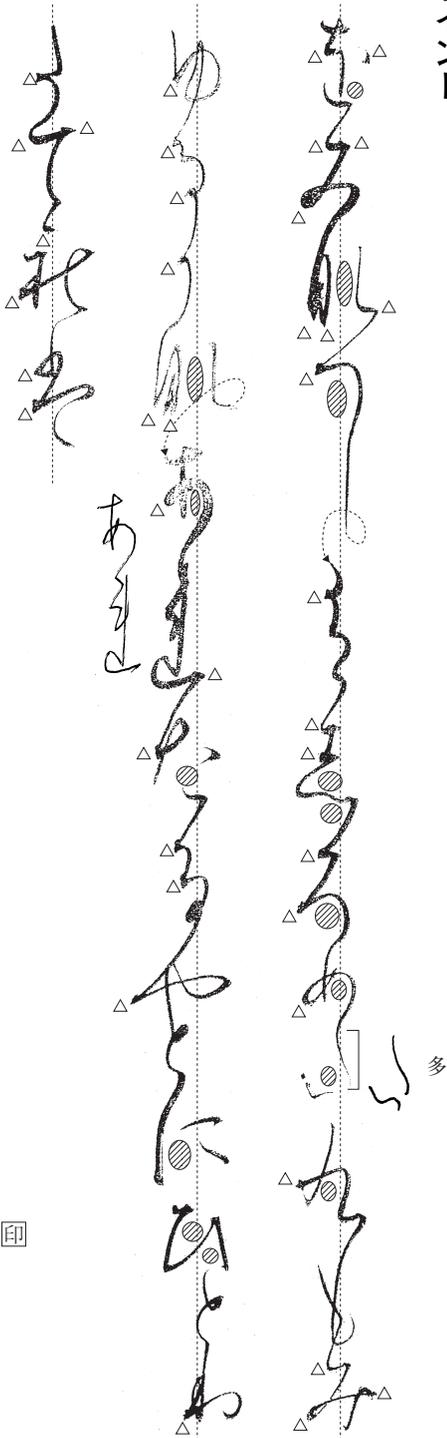


(原寸大)

をみなへし^那ろめたくもみゆる^多かなあれ^可た^那るやどにひとり^利たて^多れば^札

〈意味〉あのおみなえしはなかなか危なつかしくみえるよ。こんな荒れ果てた家の庭にひとり咲いているのだもの。

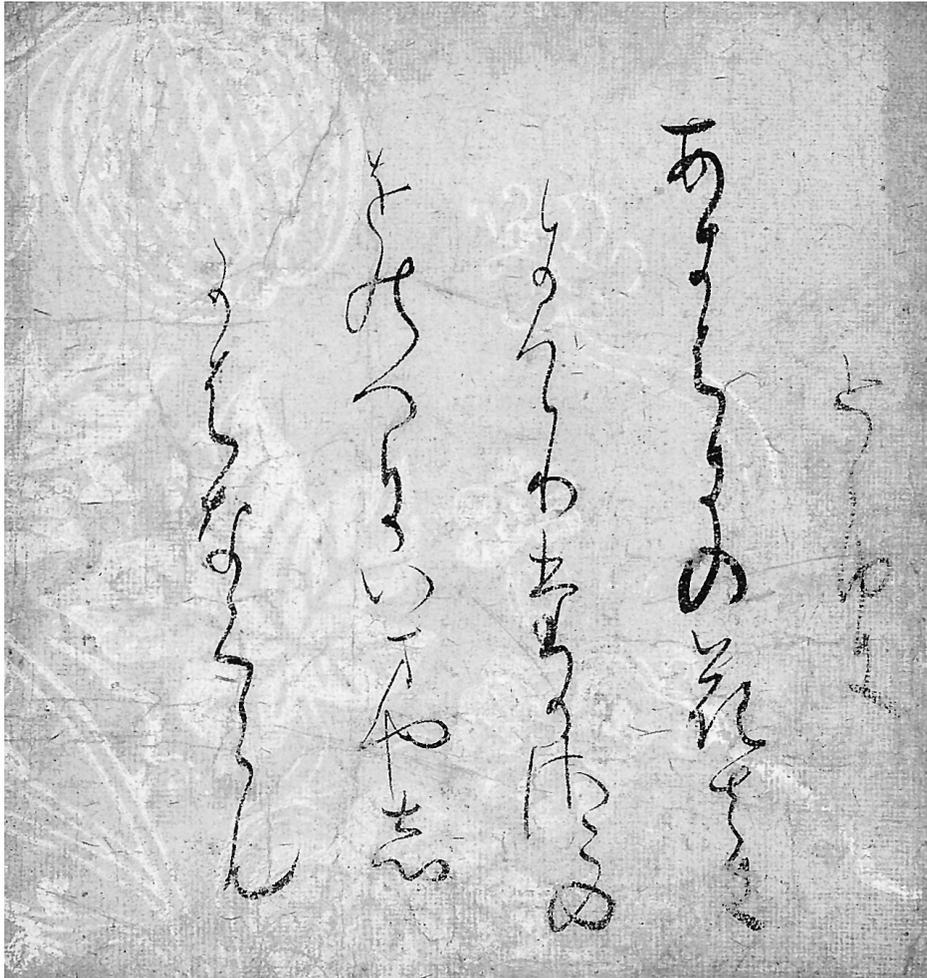
ポイント



印

- ……あける所
- △ ……あたる所

② 寸松庵色紙 ※かな用料紙を使用し、一枚を提出してください。



(原寸大)

としゆき^支 あきはぎの花さき^支にけりたかさ^支このを^能のへに^尔いまやし^万か^志は^可なくらん

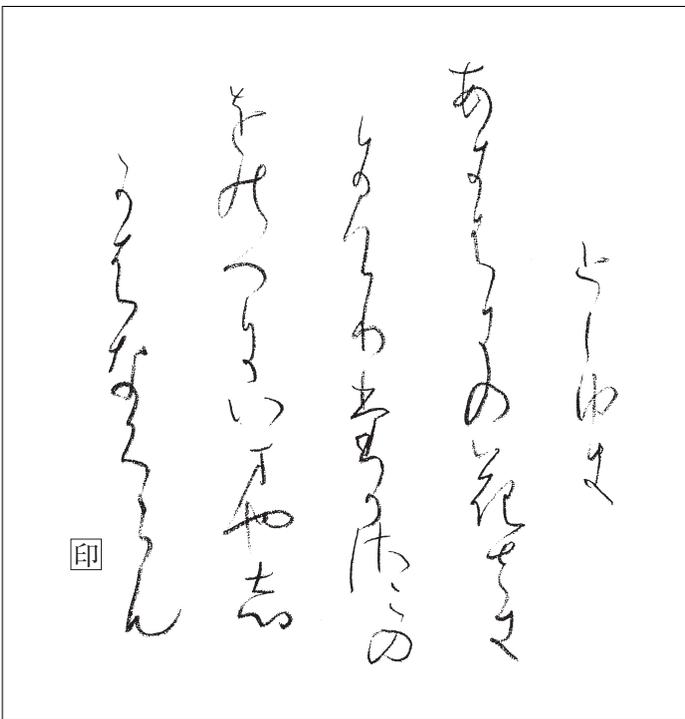
〈意味〉 秋萩の花がきれいに咲いた。都だつてこのとおりにきれいなだから、あの風光明媚な高砂の尾上は推して知るべしだ。鹿がその花を喜び、今しきりに鳴いているのではなからうか。

○ 料紙を上と同じ大きさに切ってください。行頭行尾の位置や行間に注意し、手本に忠実に臨書します。

○ 半紙（縦長に使用）の中央に薄くのりをつけて貼ってください。

○ 落款は、二分くらいの印を適した位置に押します。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

ポイント



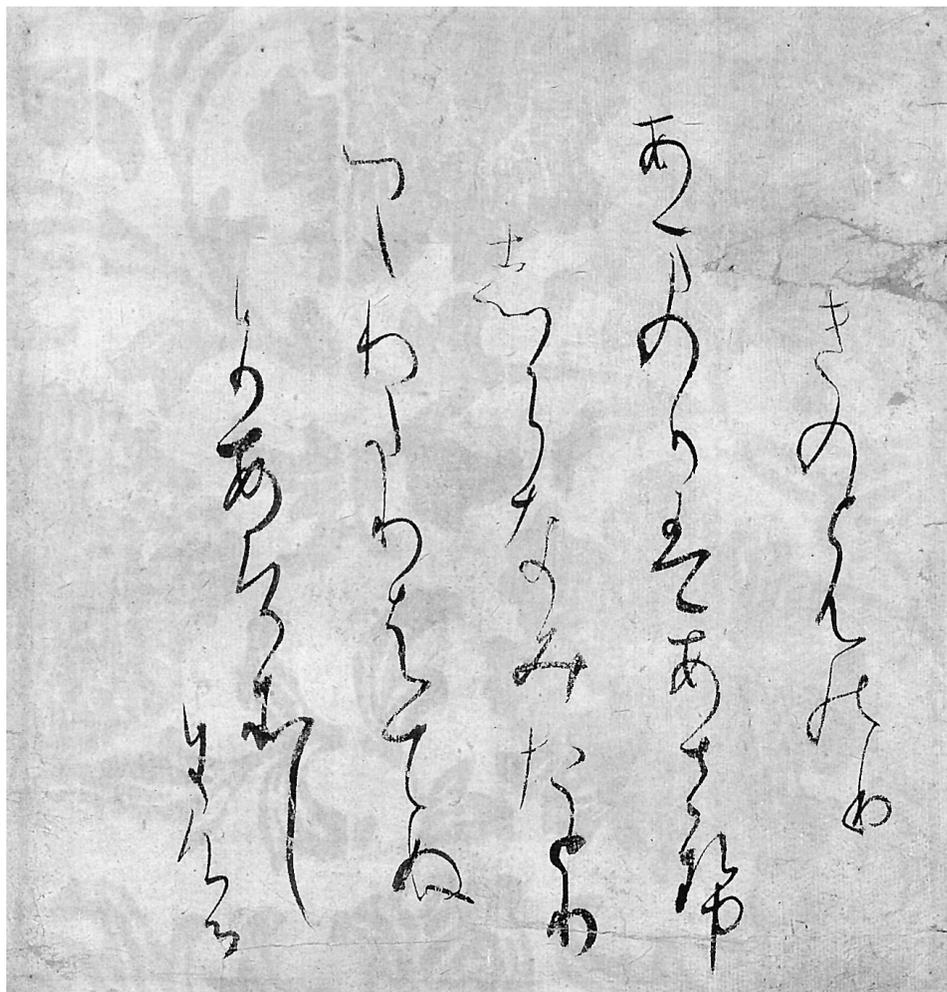
二段課題

(現在初段の方の課題)

(1・2・3の三課題、

三枚を提出)

1 寸松庵色紙 ※かな用料紙を使用し、一枚を提出してください。



(原寸大)

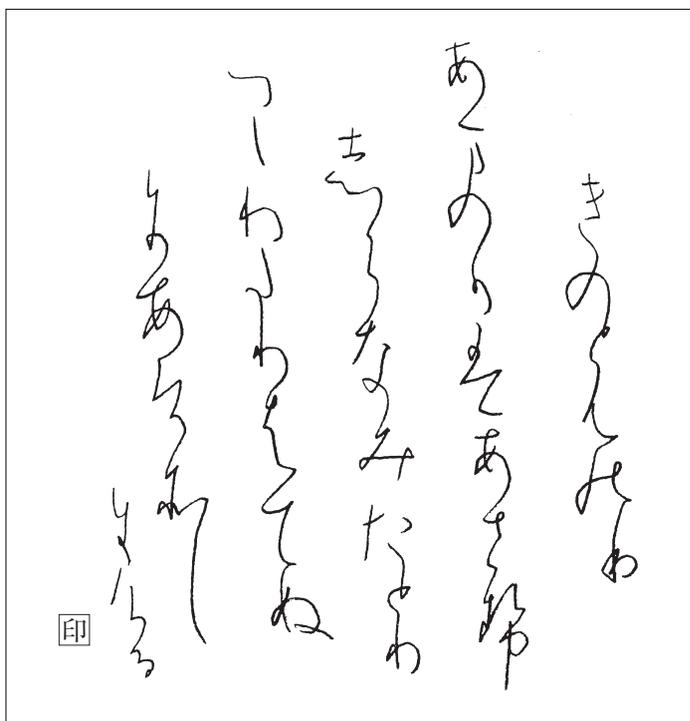
きのとも无能利のり 万あまの可盤が勢志はあさせし利らなみたどりつ、多利者わたりはてぬ介所にあけぞし介にける
 <意味> 天の川の浅瀬がどこかを知らないで、川の白波をかき分けてうろろしながら行ったものだから、川を渡りきらないうちに、夜は明けてしまいましたよ。

○料紙を上と同じ大きさに切ってください。行頭行尾の位置や行間に注意し、忠実に臨書します。

○半紙(縦長に使用)の中央に薄くのりをつけて貼ってください。

○落款は、二分くらい印を適した位置に押します。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

ポイント



2 関戸本古今集

※かな用料紙を使用し、一枚を提出してください。

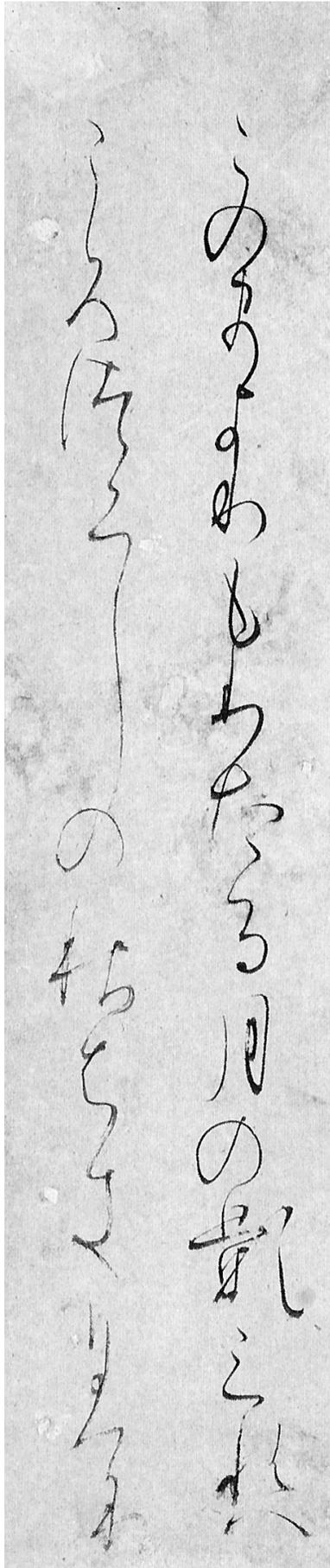
○左の「関戸本古今集」を36ページの「寸松庵色紙」の形式（六行の散らし書き）に準じて書いてください。

○料紙をタテ13.5cm、ヨコ12.5cmの大きさ（36ページの「寸松庵色紙」参照）に切り、半紙（縦長に使用）の中央に薄くのりをつけて貼ってください。

○文字の散らし方、空間のとり方はそのまま、料紙の大きさに調和するように書いてください。

○連綿はほぼ手本通りにしますが、行の長さを考慮して切ってもかまいません。

○落款は、二分くらいの印を適した位置に押しします。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。



影
共

者
介

(115%に拡大)

このまより利利たる月の影三みれば 八こゝろ徒づくしの秋者は支きに介けり利

〈意味〉木の間からもれて来る月光を見ると、心も消えるほどに物思いをさせられる秋が来たことだ。

3 漢字かな交じり 半紙

語句

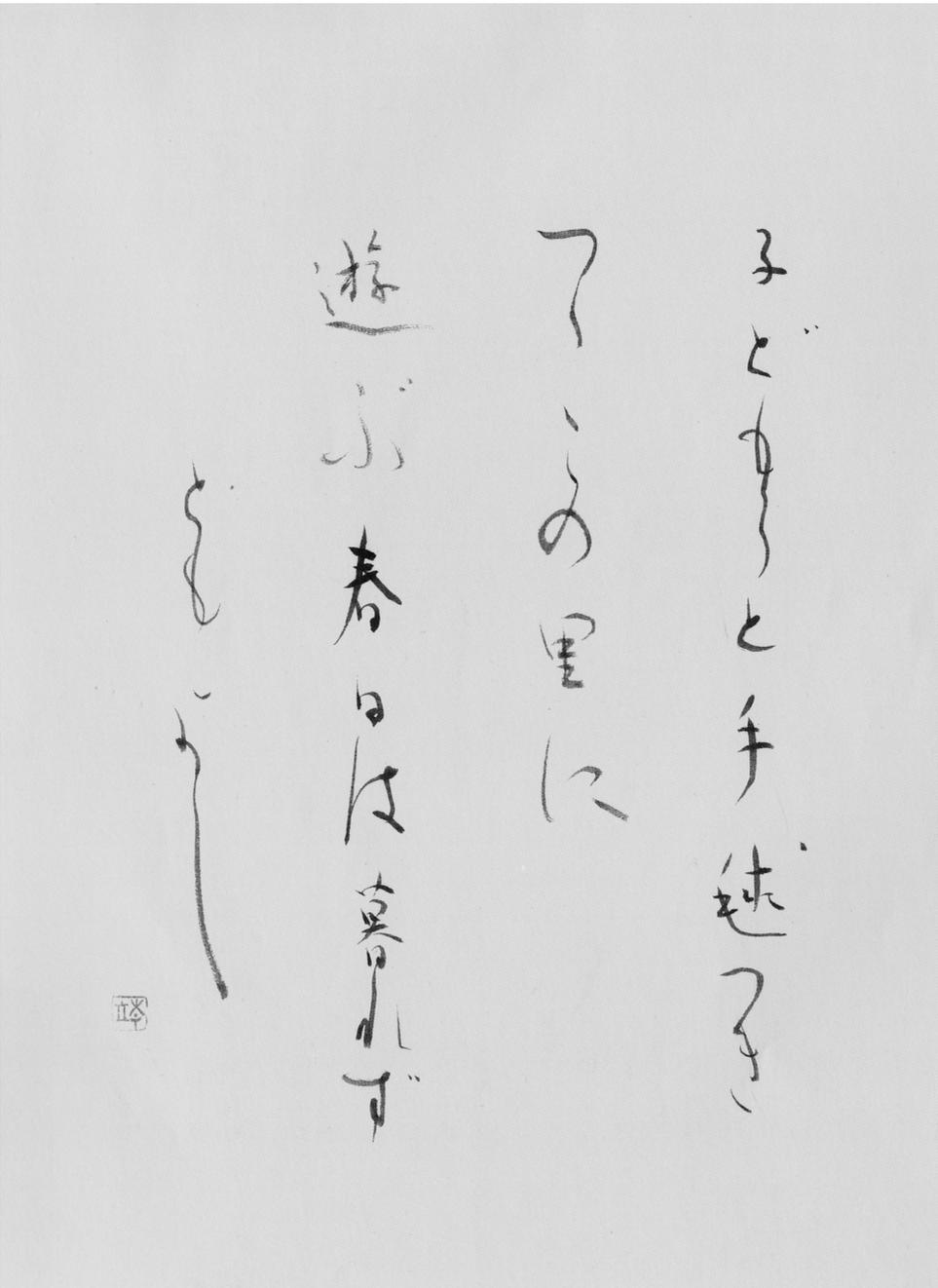
・子どもらと手毬つきつこの里に遊ぶ春日は暮れずともよし
(良寛 1758～1831)

※かな用半紙を使用し、一枚を提出してください。

○半紙の広さに調和する大ききさで書いてください。

○落款は、三分くらの印を適した位置に押しします。

印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。



子どもらと手毬つきつこの里に遊ぶ春日は暮れずともよし

ポイント

イメージ

・かなに漢字を融合させ、明るく伸びやかに

紙・筆・墨

・半紙(縦長に使う)

・7～9号の大きさ

・にじまない程度に磨る

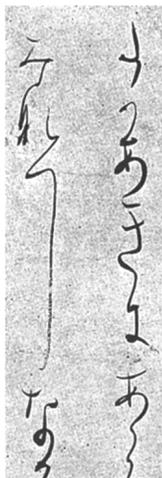
アドバイス

・細い線の中にも直線的な骨格を意識し、

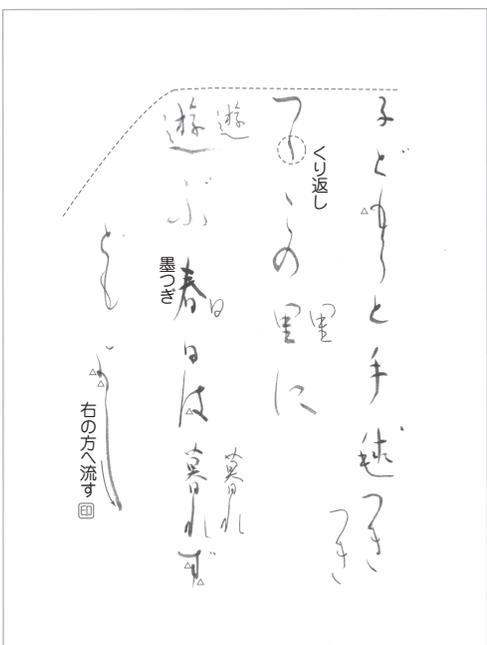
強い線でリズムカルに

古典参考資料

・伝 藤原行成「関戸本古今集」
(平安時代)



明るく変化に富み、リズムカルな用筆に加え、品格の高い作品



三段課題

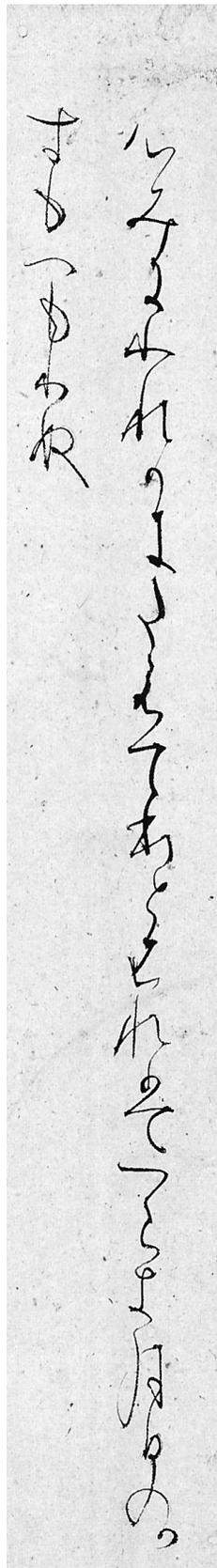
(現在二段の方の課題)

(1・2・3の三課題、三枚を提出)

1 針切

※かな用料紙を使用し、一枚を提出してください。

- 料紙を左の大きさに切り、原寸大で臨書し、半紙(縦長に使用)の中央に薄くのりをつけて貼ってください。
- 落款は、二分くらいの印を適した位置に押しします。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

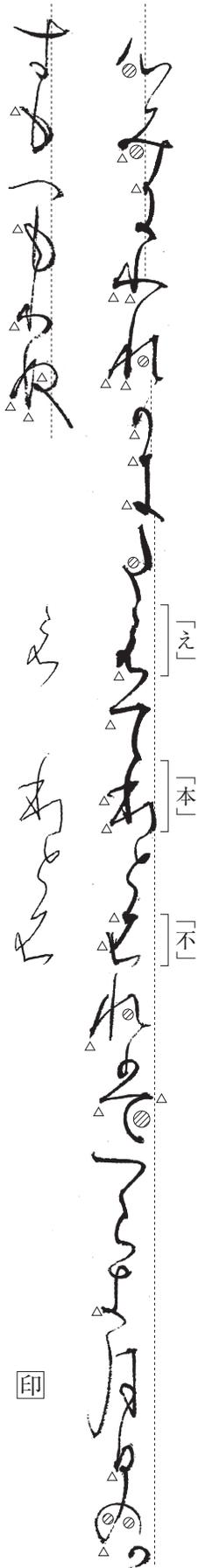


(原寸大)

心尔みにわれかきたえてほ本どふ不れば つら支き月日のか可ずもつ利もりぬ

〈意味〉 いつも私の方からお便りをあげるばかりのようなので、貴女の気持をたしかめようと、ために私の方からのお手紙をあげなくなつてから、もう随分と日がたつのに、貴女の方からは何の音沙汰もないので、本当に情ない月日がつもってしまいました。

ポイント

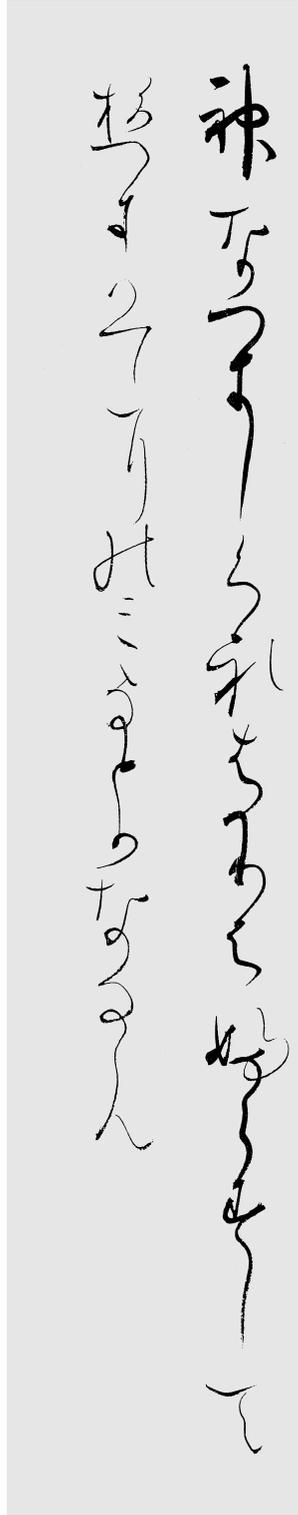


◎…あける所
△…あたる所

2 石山切伊勢集

※かな用料紙を使用し、一枚を提出してください。

- 料紙を左の大きさに切り、原寸大で臨書し、半紙（縦長）の中央に薄くのりをつけて貼ってください。
- 落款は、二分くらいの印を適した位置に押します。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。



（原寸大）

神なづき支しぐれ礼者可判者婦ばかりはふらず春して天 ゆきかて遊支可にのみ耳能三奈なごかなるらん可

《意味》もう神無月になってしまいました。神無月はしぐれの降る月なのに、しぐれだけではなくて、どうして雪まじりにまでなって降るのでしょうか。わたしは、どうしてそちらへおうかがいできないのでしょうか。

3 創作（半懷紙36cm×25cmの料紙を縦長に使用）

● 和歌一首の創作

おしなべて花の盛りになりにけり山の端ごとにかかる白雲

《意味》見渡すかぎり、桜の花盛りになってしまったよ。山の端ごとに、花が

白雲となつてかかっている。

千載集（西行）

- 散らしは自由で、変体がなの使用も可です。
- 漢字は、かなに変えてもよいです。（漢字の読みに注意します）
- 和歌の作者名は書かなくてよいです。
- 落款は、三分くらいの印を適した位置に押します。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。
- 料紙は色の濃いものや文様の華美なものは避けてください。

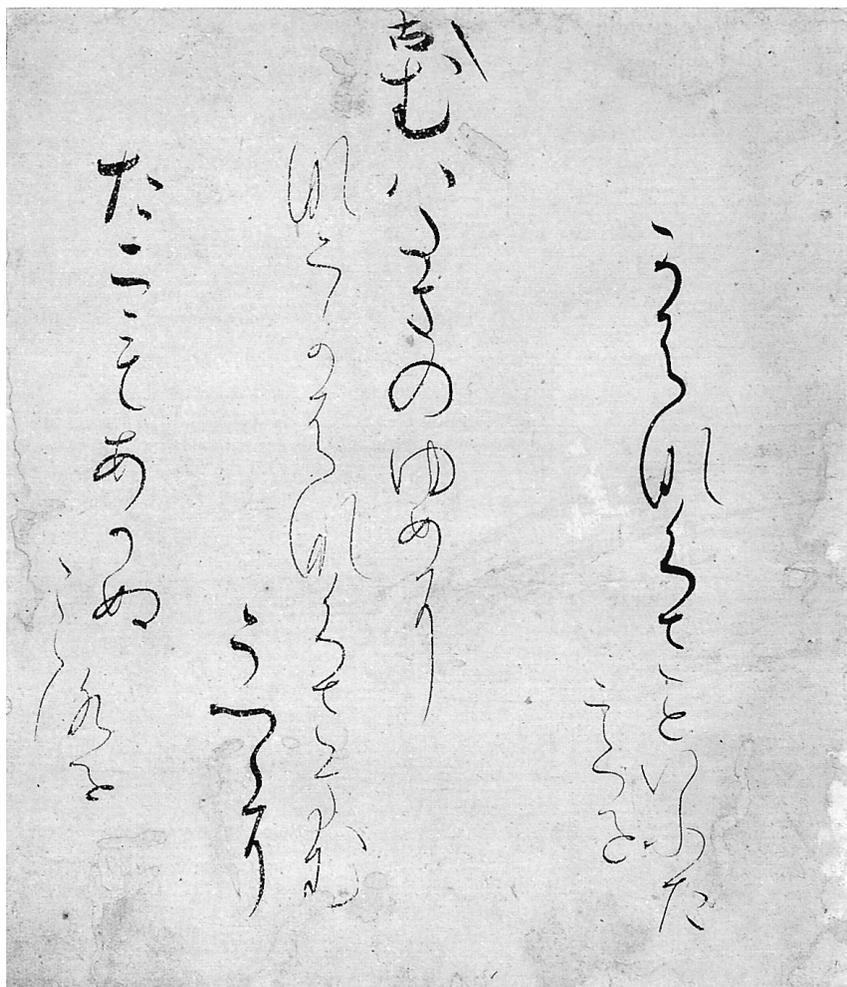
四段課題

(現在三段の方の課題)

(1・2・3の三課題、

三枚を提出)

① 升色紙 ※かな用料紙を使用し、一枚を提出してください。



(原寸大)

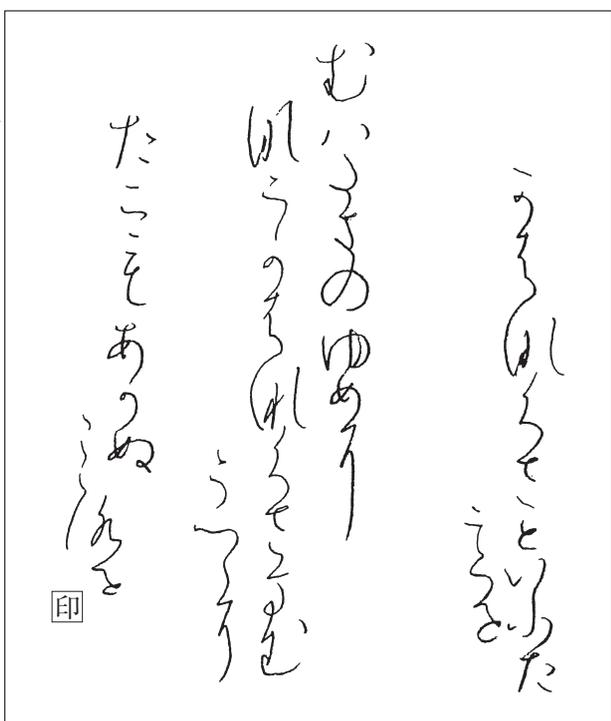
可者那 意 八多万 耳那二可者那 万 耳二毛 可 路
 かはなぐさといふたいを むばたまのゆめになにかはなぐさまむうつにだにもあかぬころを
 <意味>「かわなぐさ」という題を 夢でお逢いすることだけでどうして心がなぐさめられる
 であろうか、この現実でお逢いしても、それでもまだ飽き足りない心なのに。

○ 料紙を上と同じ大きさに切ってください。行頭行尾の位置や行間に注意しましょう。古筆の文字の不明な部分は骨書さを参考にして臨書します。

○ 半紙(縦長に使用)の中央に薄くのりをつけて貼ってください。

○ 落款は、二分くらいの印を適した位置に押します。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

ポイント

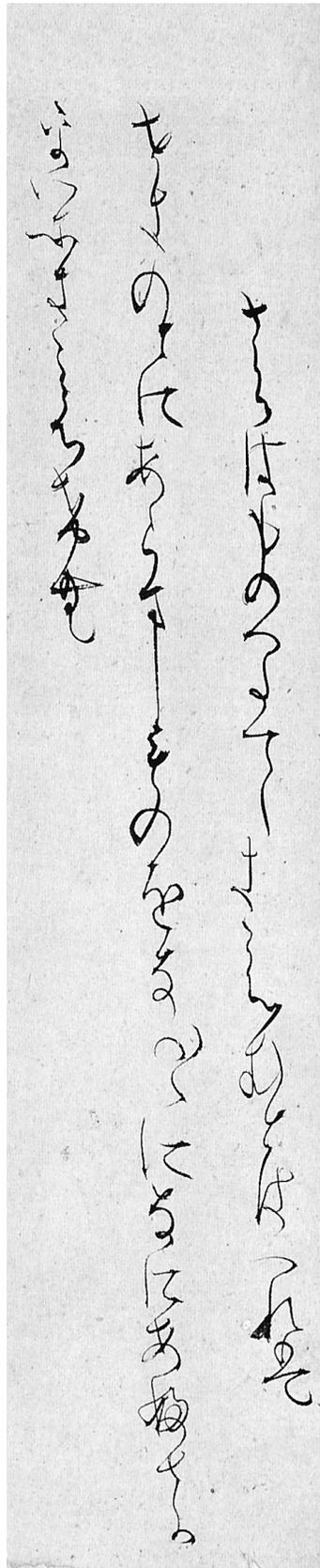


○ 校合書(校合書)は書かなくてもよいです。

2 針切

※かな用料紙を使用し、一枚を提出してください。

- 料紙を左の大きさに切り、ほぼ原寸大で臨書し、半紙（縦長）の中央に薄くのりをつけて貼ってください。
- 落款は、二分くらいの印を適した位置に押しします。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

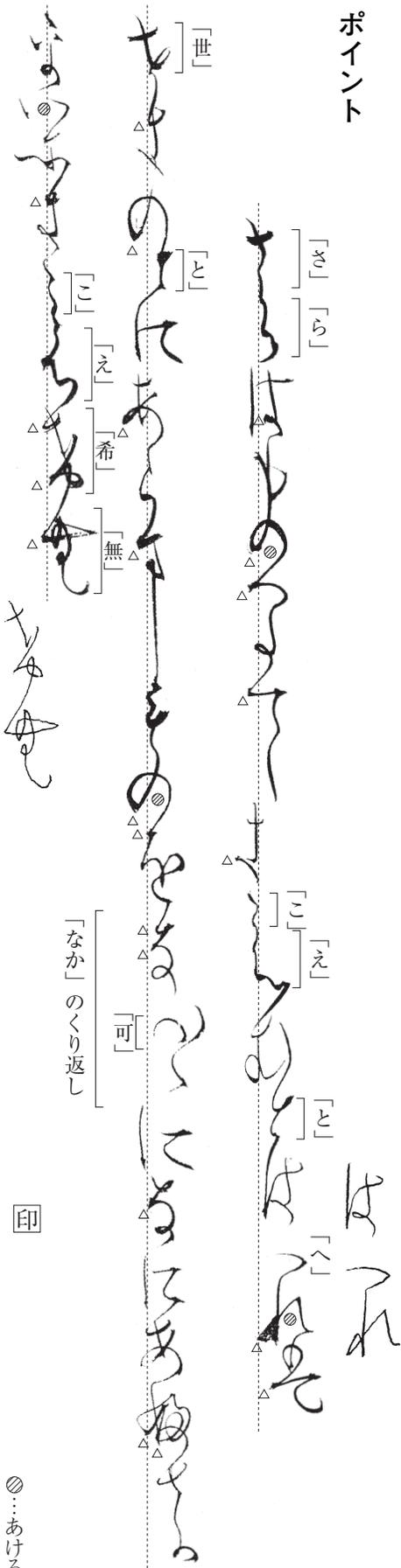


（原寸大）

さらばものへだて、きこえむとはべれば、せきのとにあらましもをなかくになにあふさかをいそぎこえけむ
 支 盤 世 支 万 毛 奈 可 奈 婦 可 手 所 支 希 無

〈意味〉「ものごしで御めにかかりましょう。」と彼女が申しますものごしの対面ですって。そんなことなら、いっその事、関所、逢坂の関の外におればいいものを、じかにあえるものとはかりに慌てふためいて二人逢う瀬の逢坂の関、この御部屋までやってきたんだらうに。

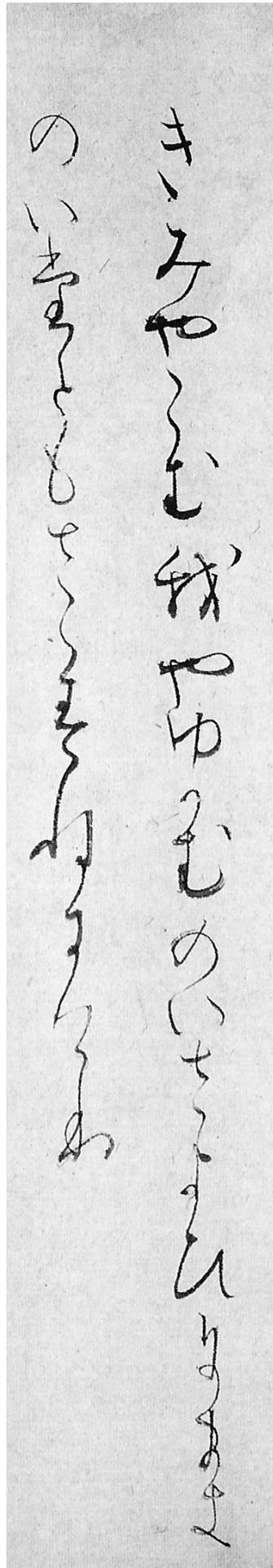
ポイント



○…あける所
 △…あたる所

3 関戸本古今集

○左の関戸本古今集を、半切はんせつ（135 cm × 35 cm）に拡大臨書してください。（半切は、かな用加工画仙紙が望ましい）
 ○落款らくかんは、五分くらいの印を適した位置に押しします。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

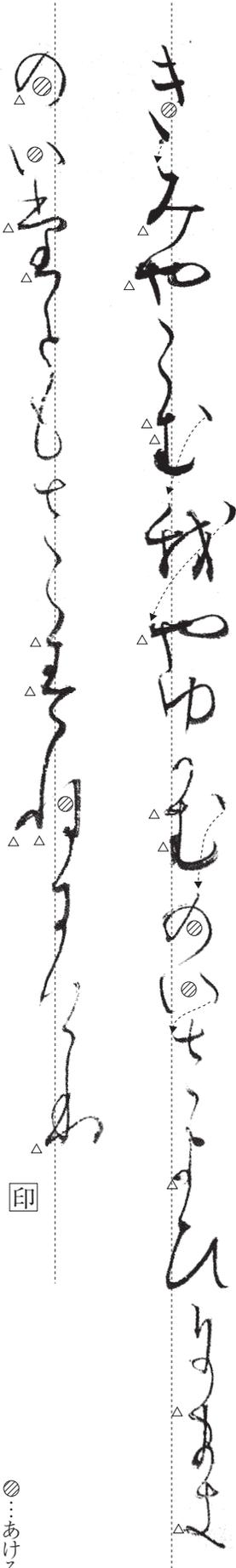


きみやこむ我やゆかむのいぎよひにまきのいたどもさずねにけり

（115%に拡大）

＜意味＞ あなたが来てくださるのを待とうかそれとも私が行こうかしらとためらっていると十六夜の月までがためらいがちに出て来た、とうとう月をながめながら
 横の板も閉さずに仮寝をしたことだった。

ポイント



●…あける所
 △…あたる所

② 創作 ※半切縦135 cm×横35 cm

●和歌一首

奥山にもみぢ踏みわけ鳴く鹿の声聞く時ぞ秋はかなしき

＜意味＞ 奥山で、散ったもみじ葉を踏みわけて鳴く鹿の声を聞く時はとくに、秋はもの悲しく思われることだ。
古今集（猿丸大夫）

③ 創作 ※半懷紙36 cm×25 cmの料紙を縦・横自由

●和歌一首

今朝みれば山も霞みてひさかたの天の原より春は来にけり

＜意味＞ 立春の今朝見ると、山も霞がかかっている、（ひさかたの）空からまず春はやって来たことだ。
金槐集（源実朝）

④ 創作 ※半懷紙36 cm×25 cmの料紙を縦・横自由

●漢字かな交じり

この道しかない春の雪ふる

＜意味＞ 降っては消えて行く春の雪にぬかるむ道を、作者は今日も乞食を続ける。「この道しかない」という言葉は生に対する作者の嘆息である。

（種田山頭火）

○二行書きでも散らしてもよいです。作者名は書きません。

○変体仮名の使用、漢字とかなの変換は可です。

○落款は、五分くらいの印を適した位置に押しします。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

○半切は、かな用加工画仙紙が望ましく、色の濃いものや文様の華美なものは避けてください。

○散らしは自由で、変体仮名の使用も可です。

○漢字は、かなに変えてもよいです。（漢字の読みに注意します）

○和歌の作者名は書かなくてよいです。

○落款は、三分くらいの印を適した位置に押しします。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

○料紙は色の濃いものや文様の華美なものは避けてください。

○構成を考えて自由に書いてください。文字を続けて書く時は二～三文字までとします。

○草書と変体仮名は使用せず、漢字とひらがなを置き換えずそのまま書きます。

○落款は、三分くらいの印を適した位置に押しします。印をお持ちでない場合は、赤えんぴつでしるしをつけます。

○料紙は色の濃いものや文様の華美なものは避けてください。

創作にむけてのアドバイス

① 書風を考え集字

- 課題となつている和歌を、今まで学んできた古筆の中から一つの古筆を選び、作品のイメージをつくりまします。
- 選んだ古筆の中から、実際に書くかな文字や変体仮名、連綿文字を集め、書き出します。変体仮名や連綿文字を集めた便利な字典も出版されています。

- 漢字は、行書か草書で書きますが、くずし方は字典で調べて正確に書いてください。なるべく選んだ古筆の調子に合うものを探します。

② 書き込み

- 集字した文字や連綿文字のうち、どれを使用するかは書き込みながら考えます。
- 半懐紙の場合は、特に散らしを研究し、行の長短の変化をつけたり、行間の広い狭いを工夫したり、行頭行尾がそろわないようにも工夫します。
- 同じような字形、大きさの文字が並ばないようにします。
- 字間の疎密、字幅、線の太細、墨の潤濁などの変化を考えながら、自然な流れになるように、全体をまとめます。

③ 仕上げ

- 最後に印を押します。全体の空間構成、調和を考え、効果的な位置に押します。署名を入れて押印することもありますが、調和が難しいので、印のみの方が無難です。
- 作品の大きさに合った印を押し、朱肉は印泥を使用します。

〈参考書〉書店又はネットで購入してください。

『新書源』二玄社（五、八〇〇円＋税）

『新書道字典』二玄社（四、八〇〇円＋税）

『かな字典』二玄社（二、四〇〇円＋税）

『携帯版古典かな字鑑』書藝文化新社（二、八〇〇円＋税）

『和様字典』二玄社（三、二〇〇円＋税）

※価格変動があります。

雅印

へかな小色紙用

へかな半懐紙用

へかな半切用



2分
(0.6cm)



3分
(0.9cm)



5分
(1.5cm)

印泥（色々な種類があります）

光明（朱色系）

一両装 二、五〇〇円

美麗（赤色系）

一両装 三、八五〇円

※価格変動があります。

※印・印泥のご注文は左記へお問合せください。

NHK学園「教材サービス」

東京都国立市富士見台二一三六一二

TEL0425723151(代)

FAX0425735372

〒186-8001



〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 ☎042-572-3151 (代表)

ホームページ <http://www.n-gaku.jp>

書道・ペン字検定課題集 (保存版) 2022. 4月改訂

©NHK 学園 Japan

※ご記入いただいた個人情報は、成績管理等に使用します。また、NHK 学園書道・ペン字検定や書道展、スクーリング、通信講座のご案内に使用させていただきます。